

二荒山神社

二荒山神社は、1999 年にユネスコの世界遺産に指定された日光の社寺の一部である。創建は 782 年で、勝道上人（735～817）が男体山に登頂し、山頂に簡素な祠を建てたのが始まりである。男体山、如法山、太郎山は二荒山神社の主な拝観対象であり、神道の神様が現れたものとなっている。山はまた輪王寺に祀られている、千手観音、阿弥陀如来、馬頭観音などの仏教の神々が現れたものと考えられている。

化燈籠（重要文化財）

この青銅製の六面提灯は、二荒山神社が 1619 年に創建されて以来、この場所にある。しかし、碑文の年代は 1292 年とされており、それよりもはるかに古いものである。不気味な光で近くのものが見え重に見えるという話もある。灯籠には 70 以上の傷や凹みがあるが、これは夜になって怯えた武士が刀で攻めてきたものだと言われている。